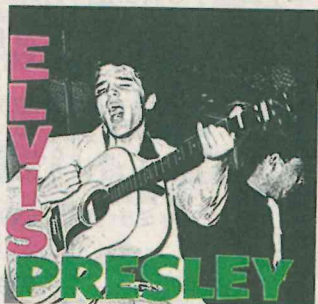
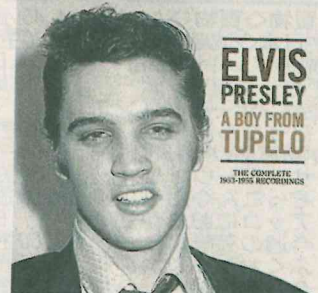


音楽 α プラス

ら実に様々な逸話が残る。しかし、最も示唆に富む例えば、11歳の誕生日プレゼントにプレスリーが欲しかったのは銃だったが、敬運を受ける時には幸運は全度なキリスト教徒だった両親が贈ったのはギターだった。そしてプレスリーはこの楽器の虜になる。数年後、音楽大好き少年プレスリーが入場料を払えず店に入れなかった時、楽屋から入れるように取り計らったのがゴスペル歌手J・D・サムナーだった。プレスリーはその恩を忘れず、大成した後で2人は共演する。プレスリーの人柄を伝える

追想のエルビス ロックンロール創世記

実は、昨日はエルヴィス・プレスリーの命日だった。彼が唐突に逝去したのは、42年前の1977年8月16日、享年42歳7カ月。余りにも若すぎる悲報だった。プレスリーは、音楽史上で最も成功したソロ・アーティストだ。死の翌日だけで2000万枚以上が世界中で売れた。プレスリー逝去のニュースの衝撃を物語る。



が行われていた。そんな社会情勢で黒人音楽に浸かっていたその真髄に触れて育ったのは僥倖そのものだ。が、其れは低所得で非常に貧しく悲惨な境遇であったが故だ。人生の機微だ。

プレスリーが中学生の頃、一家は故郷ミシシッピ州からテネシー州メンフィスの黒人居住区に引越す。この街こそ少年の音楽の旅路の出発点だ。ブルー

を支払って「マイ・ハピネス」と「ザッツ・ウェン・ユア・ハートエイク・ビギン」を録音する。この会社こそサンレコードで社長のサム・フィリップスがこの録音を聴いたところから運命の歯車が超高速で回り始める。翌54年7月にはサンレコードから「ザッツ・オール・ライト」でプロデビュー。メンフィスのラジオ局で放送されると即反響があり地元でヒット。実は、黒人が歌っていると聞いた聴衆が多かったという。プレスリーの巨大な才能が輝き始めたのだ。「ア・ボーイ・フロム・テュベロ」が当時のプレスリーを今に伝える。が、この頃は未だメンフィスのプレスリーにとどまる。

1955年12月、米高級のRCAと契約。56年1月に「ハートブレイク・テル」を発表し、直後に気TV番組トミー・ドゥー・ショーに出演する。騒ぎの腰振りでも黒っぽい白人青年の姿に、全米視聴者が熱狂する。3月はアルバム「エルヴィスプレスリー登場」も発売全くと新しい音楽ロックンロールの誕生だ。今聴いてリズム、歌唱、アレンジ斬新だ。そして、シングルもアルバムもビルボードチャート首位に立つ。後歴史だ。今宵、ロックンロール創世記に思いを馳せは如何か。

(音楽愛好家・小栗勘太郎)